

オリコンサル

中心街活性化を後押し

オリエンタルコンサルの運営管理などを目的に、タンツが、地域活性化に設立したオリエンタル群馬(前橋市、中埜智親社長)が、店舗の閉店などによってにぎわいが失われつつある前橋中心商店街の再生に、地元市民と連携し乗りだしている。



6日には空き店舗を改装して誕生した新本社で、街づくりシンポジウムを開催し写真、学識者や商店街代表などと地域活性化に向けた方向性などを議論した。

オリエンタル群馬は、指定管理業務を受託した群馬県立敷島公園の運営

前橋で先進的取り組みスタート 地域会社が地元と連携

管理を担う会社として、昨年3月に設立された。郊外型大型店舗の開店などにより、多くの地方都市で中心市街地にぎわいが失われている中、同社はACGグループが進めるより地域に密着した事業展開を実践するため、前橋市の中心市街地に本社を移転。地元の住民や商店街、街づくり組織などと連携し、活性化に向けた取り組みを本格的に展開することにした。

者がなかった建物。このビルを若者を呼び込む拠点として前橋まちなか居住有限責任事業組合が学術館「アート前橋」の生向けシェアハウスにリノベーションし、1階部分に本社を開設した。6日のシンポジウムで中埜社長は「街づくりをプロデュースする企業として人、物、情報を有機的に結び付け、街づくりや地域づくりに貢献したい」との考えを表明。

中埜社長は、現在検討している取り組みとして、スマートフォンやタブレット端末を活用した情報発信、地域活性化支援アプリを使ったネットワーク構築などを列挙した。

中埜社長は、現在検討している取り組みとして、アート前橋の生、商店街にとって有益な取り組みであり、さまざまな考えを示した。